

和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区

**鳥獣保護区更新調査業務
報告書**

平成28年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

1.調査の目的

この調査は、平成 29 年 10 月 31 日で設定期間が満了する和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区の更新を行うため、野生鳥獣等の生息状況を把握し、基礎資料とする事を目的とする。

2.調査区域及び調査対象

和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等。

3.調査内容

現地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

4.調査地の概要及び環境

和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区は、大阪府の南部、和歌山県との境界に接し、岸和田市と貝塚市に、またがって位置している。標高 858m の和泉葛城山山頂を含み、面積は約 57ha である。東側は葛城牛滝鳥獣保護区に接している。西側はやや離れて犬鳴山鳥獣保護区と大阪府立少年自然の家特定猟具使用禁止区域(銃)がある。

保護区内はすべて山地地形である。植生はブナーシラキ群集である。高木層にはブナ、アカシデ、コハウチワカエデ、コナラ、ホウノキ、ミズメ等が見られ、亜高木層にはコシアブラ、リョウブ、ウラジロノキ、タムシバ、コハウチワカエデ等が見られ、低木層にはコバノミツバツツジ、ツリバナ、アオキ、クロモジ、ネジキ、タムシバ等が見られ、林床にはツルシキミやミヤコザサ等が見られる。このブナ林は 1923 年(大正 12 年)に国指定天然記念物に指定されている。

また、貴重な植物が多く生息し、カキノハグサ、カツラギグミ、キンラン、クワガタソウ、ハシリドコロは大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されており、ウメガサソウ、エイザンスミレ、ヤマジオウは準絶滅危惧(NT)に指定されている。また、保護区に近い林ではキバナチゴユリが生息し、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に指定されている。

鳥獣保護区内のブナ林は、公益財団法人 大阪みどりトラスト協会による、様々なブナ林保全活動が行われている。また、ハイカーや自然愛好家の憩いの場としての人気も高い。

5.調査地域図

図1に、調査地域図を示す。



図1 調査地域図

6.調査方法

以下に示す資料による文献調査、ヒヤリング及び現地調査によった。ヒヤリング結果は表1に反映させた。現地調査は鳥獣保護区内登山道(塔原道から蕎原道)1kmを8:00より10:00まで、2km/hの速度でラインセンサス(定点調査を含む)を行なった。片側50m両側合わせて100mの範囲の鳥類を記録した。

文献1:日本野鳥の会 大阪『むくどり通信 No183～245』(2006.5～2016.11のデータ)

文献2:きしわだ自然資料館資料

文献3:廣田博厚フィールドノート

文献4:大阪市立自然史博物館資料

現地調査は、文献調査の補足及び最新の状況把握を主眼として実施した。

7.調査結果

7-1.鳥類の確認

今回の調査により、和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区で確認した鳥類を、添付表 1 の和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区確認鳥種一覧表に示す。分類は 2012 年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第 7 版』によった。なお、コジュケイは中国南部原産の鳥であるが、今回は調査対象とした。また、ソウシチョウも移入種であるが、参考の種として和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区確認鳥種一覧表の末尾に掲載した。

文献調査および現地調査にて 80 種の鳥類を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥 32 種、夏鳥 14 種、冬鳥 23 種、旅鳥 11 種である。なお、留鳥(一部冬鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)の()付きの種についてはそれぞれ留鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

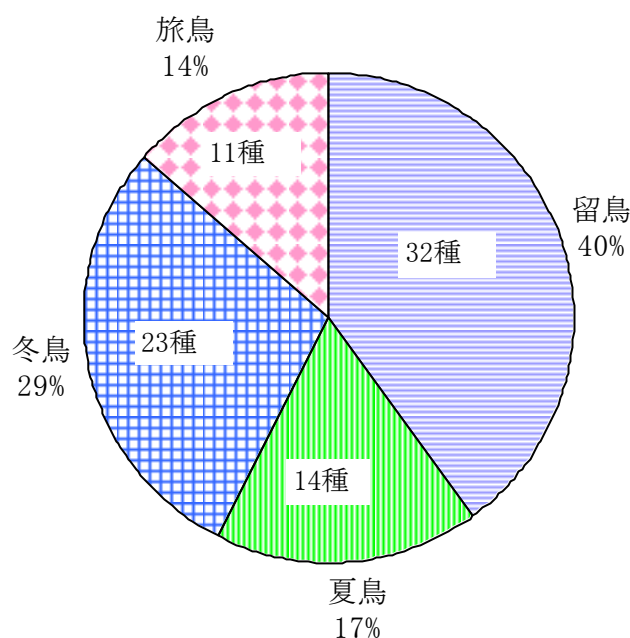


図 2 生息区分割合(%)

生息区分については 2002 年刊行の(財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録 2001』によった。図 2 に生息区分割合(%)を示す。すなわち、留鳥 40%、夏鳥 17%、冬鳥 29%、旅鳥 14%であった。

今回の調査で 32 種の留鳥が確認されたが、四季別の文献調査の全てで確認され

たのは、キジバト、トビ、オオタカ、コゲラ、オオアカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロカワラヒワ、ホオジロの18種であった。これらの鳥は、すべての季節に和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区内に生息することが判った。これらの鳥でオオタカ、オオアカゲラを除く16種は、冬期12/3の現地調査でも確認された。

今回の調査で確認された夏鳥はホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、サシバ、アオバズク、サンショウクイ、ツバメ、コシアカツバメ、ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリの14種であった。この内、5/20～7/20の夏期に確認されたのはアオバズク、サンショウクイ、コシアカツバメを除く11種であった。

今回の調査で確認された冬鳥は、ハイタカ、ノスリ、オオコノハズク、チョウゲンボウ、キクイタダキ、ヒレンジャク、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、カヤクグリ、ビンズイ、アトリ、マヒワ、ハギマシコ、ベニマシコ、オオマシコ、イスカ、ウソ、カシラダカ、アオジ、クロジの23種であった。この内、12/1～2/末の冬期に確認されたのは、オオコノハズク、チョウゲンボウ、トラツグミを除く20種であった。

今回の調査で確認された旅鳥は、アマツバメ、アカショウビン、イワツバメ、オオムシクイ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、マミジロ、マミチャジナイ、コルリ、エゾビタキ、コサメビタキの11種であった。

今回の調査で、留鳥32種、夏鳥14種を確認した。これは出現鳥80種の57%である。和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区は野鳥生息地や繁殖地として、良く活用されていることが判った。

また、目別にみると、キジ、ハト、カッコウ、アマツバメ、タカ、フクロウ、ブッポウソウ、キツツキ、ハヤブサ、スズメの野山に生息する鳥のみが確認された。

次に、繁殖および繁殖の可能性について述べる。今回の調査で確認した留鳥32種、夏鳥14種、合計46種を対象に、繁殖の可能性の判定を行った。繁殖の可能性の判定は、添付表2の環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』に従って判定を行った。

その結果、繁殖を確認したもの(aランク)はキジバト、コゲラ、オオアカゲラ、ハシボトガラス、ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオルリの9種であった。

また、繁殖期に繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるもの(bランク)はアオバト、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、クロツグミ、キビタキ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、コジュケイの

19種であった。

また、繁殖期に生息を確認したが、繁殖についてはなんともいえないもの(cランク)は7種であった。繁殖期に生息は確認できなかったが、繁殖期の生息が考えられるもの(eランク)は3種であった。繁殖期に生息を確認できず、繁殖についてはなんともいえないもの(fランク)は8種であった。従って、今回の調査で繁殖とその可能性を確認できなかったものは18種であった。

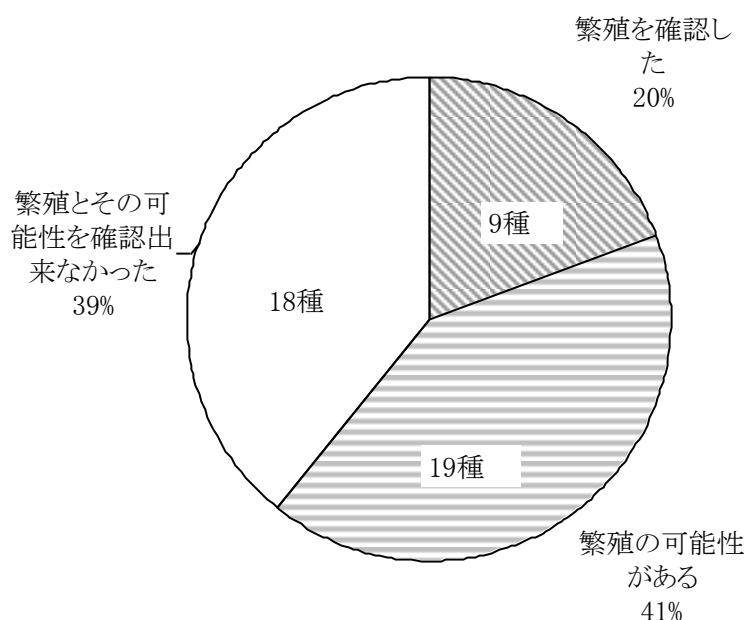


図3 繁殖の可能性(%)

図3に繁殖の可能性(%)を示す。繁殖を確認したものは20%、繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものは41%、繁殖とその可能性を確認出来なかったものは39%であった。繁殖を確認したものと繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものの合計は61%と高い割合である。また、これらの種の内、アオバト、ツツドリ、オオアカゲラ、アオゲラ、ヒガラ、センダイムシクイ、ミソサザイ、クロツグミ、オオルリ、イカルは良好な森林環境を好む種であり、これらは和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区の特徴を示している。

今回の調査で、国内希少野生動植物種としてオオタカ、クマタカ、ハヤブサの3種が確認された。特に国内希少野生動植物種のオオタカが四季を通じて確認されたことは特筆に値する。環境省レッドリスト記載種は8種が確認された。内訳は、絶滅危惧I

B類(EN)としてクマタカの1種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)としてサシバ、ハヤブサ、サンショウクイの3種、準絶滅危惧(NT)としてミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの4種が確認された。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種はすべての野山に生息する鳥であった。また、大阪府レッドリスト2014記載種については、絶滅危惧Ⅰ類3種、絶滅危惧Ⅱ類4種、準絶滅危惧10種、情報不足1種の合計18種が確認された。

7-2.哺乳類の確認

文献4で、4種の哺乳類が生息していることが確認された。哺乳類確認種一覧表を表3に示す。大阪府レッドリスト2014記載種は、準絶滅危惧としてムササビの1種が確認された。

表3 哺乳類確認種一覧表

No	目	科	種名	学名	文献4
1	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○
2	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○
3			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	○
4	ウシ	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○

8.まとめ

1. 今回の調査において、和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区で80種の野鳥を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥32種、夏鳥14種、冬鳥23種、旅鳥11種である。なお、これらはすべて山野に生息する鳥であった。
2. 留鳥32種、夏鳥14種、合計46種を対象に、繁殖の可能性を調べた結果、和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区内で繁殖を確認したもの9種、繁殖の可能性のあるもの19種であった。これら28種は全体の61%という高い割合である。また、これらの種の内、アオバト、ツツドリ、オオアカゲラ、アオゲラ、ヒガラ、センダイムシクイ、ミソサザイ、クロツグミ、オオルリ、イカルは良好な森林環境を好む種であり、これらは和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区の特徴を示している。
3. 国内希少野生動植物種としてオオタカ、クマタカ、ハヤブサの3種が確認された。特に国内希少野生動植物種のオオタカが四季を通じて確認されたことは特筆に値する。
4. 今回の調査で、環境省レッドリスト記載種は8種が確認された。内訳は、絶滅危惧ⅠB類(EN)としてクマタカの1種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)としてサシバ、ハヤブサ、サンショウクイの3種、準絶滅危惧(NT)としてミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの4種

である。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種 8 種はすべて山野に生息する鳥であった。

5. 哺乳類は 4 種の生息が確認された。すなわち、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、イノシシである。大阪府レッドリスト記載種は、準絶滅危惧としてムササビの 1 種が確認された。
6. このように、和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区は鳥類、特に山野の鳥の生息や繁殖に適した環境であると共に、府域の鳥類生息地として重要な地域であると言え、今後とも鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることが重要であると考え。

9. 観察した鳥類の写真

図 4 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

10. 参考文献

1. 大阪府 大阪府レッドリスト 2014
2. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
3. 環境省 報道発表資料-平成 24 年 8 月 28 日-第 4 次レッドリストの公表について (お知らせ)
4. 日本鳥学会 2012 年 日本鳥類目録 改訂第 7 版
5. 環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』
6. 大阪府 大阪府野生生物目録 2000.3

和泉葛城山ブナ林の野鳥



イスカ



ウソ



クロツグミ



オオルリ



ヤマガラ



シジュウカラ